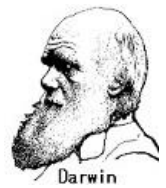
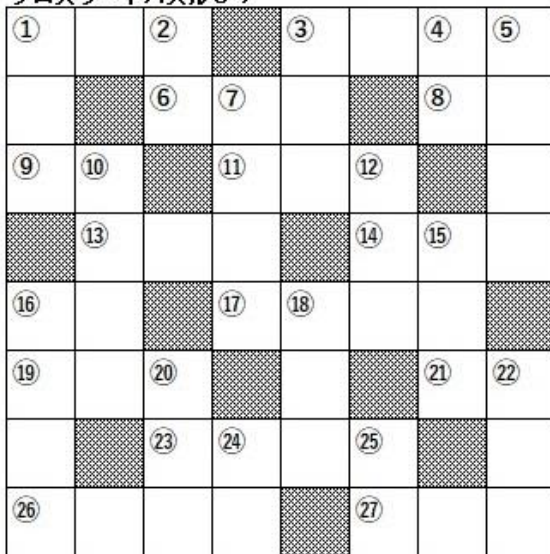


中学理科（科学） クロスワードパズル 9 7 （ダーウィンの生涯）

（ ） 年 （ ） 組 （ ） 番 氏名 （ ）



クロスワードパズル 9 7



2019 Mulberry / Lakeside House K

1809 年 (0 才) 私の名前はチャールズ・ダーウィン。あごひげの生えた〇〇 (ヨコ⑨) の肖像は有名だ。イギリスの〇〇〇 (ヨコ⑥岩盤や地層の性質) 学者・生物学者である。父ロバートと母スザンナとの間に 5 番目の子として生まれた。〇〇〇 (ヨコ⑬自分の生まれた家のこと) の父と祖父は優秀な医師として知られている。3 人の姉と兄さんのラズがいる。妹も入れて 6 人兄弟だ。同じ日にエイブラハム・リンカーンが誕生。子ども時代は自然を愛し、鉱物や昆虫採集などに夢中になり、いろいろなものを集めて楽しんだ。

9 才頃 母さんが病気で亡くなった。姉さん達が母親代わりだ。10 才で寄宿制のパブリックスクールに入学。

14 才頃 兄のラズは化学の実験が好きだ。一緒に実験室を作った。

16 才頃 父さんにはいろいろ心配をかけた。学校を退学する。エディンバラ大学医学部に入学。父さんは僕を医者にするつもりだ。医学と〇〇〇 (ヨコ⑥) 学を学んだが、医学は自分には向いていなかった。この頃はく製製作術を学び、後に生物標本を作るのに役立った。

18 才頃 エディンバラ大学では良い〇〇〇 (タテ③原因の対義語) を残せず中退し、ケンブリッジ大学に入学。牧師になるつもりだったけど、昆虫採集や植物採集、博物学に興味がある。〇〇 (ヨコ⑫生じ) それらに熱中、音楽や狩猟も楽しんだ。

22 才頃 ケンブリッジ大学は無事に卒業した。恩師ヘンズロー先生から、「海軍の測量船〇〇〇〇 (ヨコ⑫) 号に乗船して世界をまわらないか」との誘い。冒険と〇〇〇 (ヨコ⑫夢や冒険などへの強いあこがれ) の調査旅行だ。この〇〇〇 (ヨコ⑫チャンス) を逃すわけにはいかない。艦長の話し相手が役目だった。父は心配して反対したが、〇〇〇〇 (タテ⑩おばさんの対義語) のとりなしで認めてもらった。航海の〇〇〇 (ヨコ①準備のこと) を始める。年末に〇〇〇〇 (タテ⑦海から吹く塩けを含んだ風) と不安も感じながらプリマス港を出港。

〇〇〇〇 (ヨコ⑫) 号は全長 27.5 m の帆船である。船の〇〇〇 (タテ⑩金属製の部品)、計器、舷窓には腐食に強いブロンズ (青銅) が使われている。南米に向かう。船酔いする。〇〇〇 (タテ⑩がまんできないくらい苦しい) 航海になりそうだ。楽ではなさそうだ。航海

記録の執筆を開始。南米東岸を〇〇〇（ヨコ⑩北上の対義語）。〇〇〇〇（ヨコ③目的地へ行く途中の地点）のリオデジャネイロに立ち寄る。船医マコーミック（艦の正式な博物学者）が下船。後任を務めることになる。内陸へ調査旅行。ティエラ・デル・フエゴ島に到着。南アメリカの南端だ。未開の地の人々と出会う。フォークランド諸島に立ち寄る。ヘンズロー先生の手紙を受け取る。送った標本が届いていることを確認。めずらし〇〇（タテ④めずらしそうにする）人々の姿が目に見えた。

マゼラン海峡、ビーグル水道を通して南米西岸のバルパライソに寄港。病気でしばらく療養する。チリで火山の噴火を目撃、地震と津波を体験。アンデス山脈横断。

南米を離れ、エクアドル本土から西に約 900〇〇（タテ⑤）メートル離れたガラパゴス諸島に到着。西側には10,000〇〇（タテ⑤）メートル以上陸地らしきものはなく、まさに〇〇〇〇（ヨコ⑩陸地から遠く離れた海）の孤島。ゾウガメ、イグアナ、マネシツグミ、ダーウィンフィンチなど様々な生き物が生息。島ごとにゾウガメの甲羅（こうら）の形が少しずつ違う。小さな鳥ダーウィンフィンチは〇〇（タテ②）ばしの長さや曲がり方に違いがある。亀の脂肪からは、きれいな透明な油がとれる。脂肪や油のことを〇〇（タテ④）という。亀は〇〇〇〇（ヨコ③寿命が長い）だ。標本の調査収集が不十分であった。採取地も〇〇〇〇（タテ⑤気をつけること）深く記録すればよかった。ガラパゴス諸島の測量を終え、船首をタヒチ島に向ける。タヒチでは見事なバナナの〇〇（ヨコ⑩たくさん群がってついたもの）、オレンジ、ココヤシ、パンノキに目をうばわれる。険しい山登りで夜を迎えるとき、タヒチの案内人は竹を組んだうえにバナナの大きな葉をのせて、またたくまに立派な家をつくってしまった。

ニュージーランドに寄港しシドニーへ、その後インド洋を横断してケープタウンに到着。ヘンズロー先生からの手紙で、イギリスで私の評判が高まっていることを知る。セントヘレナ島（ナポレオンが幽閉された地）に寄り、英国のファルマス港に帰着。出発からほぼ5年の〇〇〇〇（タテ⑩船に乗ってする旅行）だった。

30 才頃 エマと結婚した。「〇〇〇〇（ヨコ⑩）号航海記」を出版。その後もいろいろな研究成果をまとめ発表、出版した。発表を控えながら書き続けた研究論文もある。

44 才頃 王立協会からロイヤル・メダルを受賞。

49 才頃 アルフレッド・ウォレスとの共同論文を発表。

50 才頃 「〇〇（ヨコ⑧生物分類上の基本単位）の〇〇〇（タテ⑩物事の起こり。みなもと）」を出版した。自然選択説などで生物の〇〇〇（タテ①生物のからだの特徴が、長い年月で代を重ねる間に変化していくこと）について説明。初版完売。批判が〇〇〇（タテ⑩激しくなること）しないかと心配したが、応援してくれる人もたくさんいた。体調は良くなかったが友人たちの励ましも大きい。エマの援助には感謝している。みんなの〇〇〇（ヨコ⑩力添え）だ。その後もいろいろと研究を続け出版。

73 才頃 死去。国葬に付されウェストミンスター寺院に埋葬された。